

両豊記（豊前豊後について明和6年1771年に記された文書）第18-20巻によると

宇留津城天正15年11月7日落城

黒田官兵衛天正16年1月11日豊前6郡を秀吉よりたまり、中津城を居城とする。

宇都宮鎮房、身の置き所なきにより、城井の城に籠る。この形勢を見て、大畑の加来安芸守統直等国中の一揆蜂起して諸所の城郭に立て籠もる。

秀吉急ぎ誅伐すべきと命を下す。

天正16年3月5日-10日日隈城、池永城陥落

同24日大畑城陥落加来統直討ち死

天正16年6月毛利勝信来たり、秀吉の機嫌を見て田川郡内に数村を賜るよう言上するとの申し出で、7月9日に鎮房、城井城を開城赤郷に移る。

同年11月沙汰がないことを怒り、鎮房城井城に押し寄せ城を奪還

黒田長政直ちに城井城を攻めるも敗北。

秀吉、謀計をもって鎮房を討つべしと命ず。

黒田長政いったん和睦し旧領安堵を伝えた、鎮房らは安心し、黒田の命により天正17年4月11日嫡男朝房を熊本へ検地手伝いのため出発させた。

4月20日長政は対面申し出で、鎮房は中津城へ赴く。ここで、長政、鎮房を謀殺。

鎮房の父、長甫も討たれ宇都宮氏は滅亡した。